

今回は地元の小学校への積極的なアプローチからスタートし、今では市の英語教育指導助手として授業をサポート、また教員研修・ワークショップなどの講師を担当したり、小学校英語教育関連の執筆活動もされているトレーナーの実践報告です。



行岡七重さん

SHINE 通信

2014年4月号

大阪府枚方市英語教育指導助手
アルクKiddy CAT英語教室Enjoy主宰
J-SHINETレーナー資格保持者

■ J-SHINETレーナー資格を取得したきっかけ

15年前、私は主人の転勤に伴い4人の娘を連れて渡米しました。異文化を経験し、多様性への価値観が大きく変わっていきました。英語を使って生活する中で、その言語背景に色濃く存在する文化というものを意識するようになり、それへの探求心でいっぱいになりました。

この海外経験が今の私の礎になり、帰国後、アルクの通信教育で学び、自宅で教室を開設。ほぼ同時期にJ-SHINE資格認定研修講座を受講し資格認定を受けました。

そんな折、娘たちが通う小学校では、土曜日に地域人材が各々の趣味や特技を生かして児童の指導にあたるプログラムが開催されていました。駆け出しの英語教師だった私は「娘たちがお世話になっている学校のお役に立てるかもしれない。しかも経験を積めるいいチャンス！」と勇気を出して、教頭先生へ「『えいごであそぼう』をさせて下さい！」とお願いに上がりました。いわば、これが私と小学校英語との出会いでした。

そこから、ゲストティーチャー、英語クラブの指導、教頭先生からのご紹介で他校でも指導を経験し、正式に枚方市特別職非常勤講師として採用されてからは、英語教育指導助手として、主に担任の先生とのチームティーチングで授業を行い、小学校英語に欠かせないこの二つの役割について深く考えるようになりました。そして、私のこれからの使命は、民間人材が現場に入るための支援活動をする事、現場の先生方が自信を持って英語活動に携われるような土台をつくることだと感じ、指導者を指導する資格としてのJ-SHINETレーナーを志しました。



枚方講座 司会



神戸講座 Workshop

■ 現在の活動状況

J-SHINETレーナー資格を取得してから、仕事の場が増え、その幅が大きく広がりました。小学校現場はもちろんのこと、民間企業、登録団体での研修講師や執筆活動などです。

まず小学校現場での関わり方は、大きく分けて2つです。①枚方市英語教育指導助手として、配属校で年間88授業日の勤務。学校の規模によって、複数校に勤務する年もあります。年間35コマ、5学年と6学年に、学級担任の先生方とのチームティーチングで外国語活動を行っています。学校裁量で、1~4年生に授業をすることもあります。②教員研修講師として、配属校では年間を通して先生方と英語に関わる様々な学びの場を持ち、配属校以外でも夏休みや春休みにはリクエストに応じて、研修メニューを組んでワークショップでの講師を務めています。

民間では、これから児童英語講師を目指される方や、J-SHINE資格を取得される方への講義やワークショップの実施。書籍や刊行物への執筆や、公立小学校における英語教育に関する記事のインタビューに協力することなどで関わらせていただいています。

また、2013年のJ-SHINE創立10周年記念出版「こんな子どもになってほしい“Hi, friends!”のトピックに基づいた英語活動集」では、活動案ならびに、活動の4つの指針の「チーム・ティーチング」の頁の執筆担当をさせていただきました。そしてこの活動集を教材とし、一年を通じて全国30か所で開催された10周年記念フォローアップ講座のファイナル会場となりましたのが、私が住む大阪府枚方市でした。各地から各地へ受け継がれたバトンを、枚方講座が繋げるその先は、次年度からのJ-SHINE講座、各地の次年度の取り組み、そして、ご参加くださった皆様の明日からの行動。未来に繋げることを大目的に、外国語活動に関わる様々な立場の人たちが一堂に会し、異なる視点や多様な価値観で交流、各人の価値観を広げることで、コミュニケーション力を含めた指導力のアップをはかることを目標としました。講座の運営実施にご尽力賜りました皆様、ならびに100名を超える受講者の皆様のお蔭で、当日は企画をはるかに越えた大きな学びの場が創造されました。そしてバトンは未来へと繋がられました。

■ 今後の展望

来るべき英語教育の変革に備るために、まずは個人として自己研鑽を続けていきたいです。専門性はもちろんのこと、ひとりの人間として豊かな人格を形成していけるよう、自分とは異なる人・物から学び、多面的に考える力や柔軟性を養っていきたいです。また、ひとりではできないことも、仲間と一緒になら励まし合って叶えられます。ネットワークをつくり、協同、切磋琢磨し合って、一丸となって子どもたちを育てていけるよう、今後も努力し続けたいと思います。